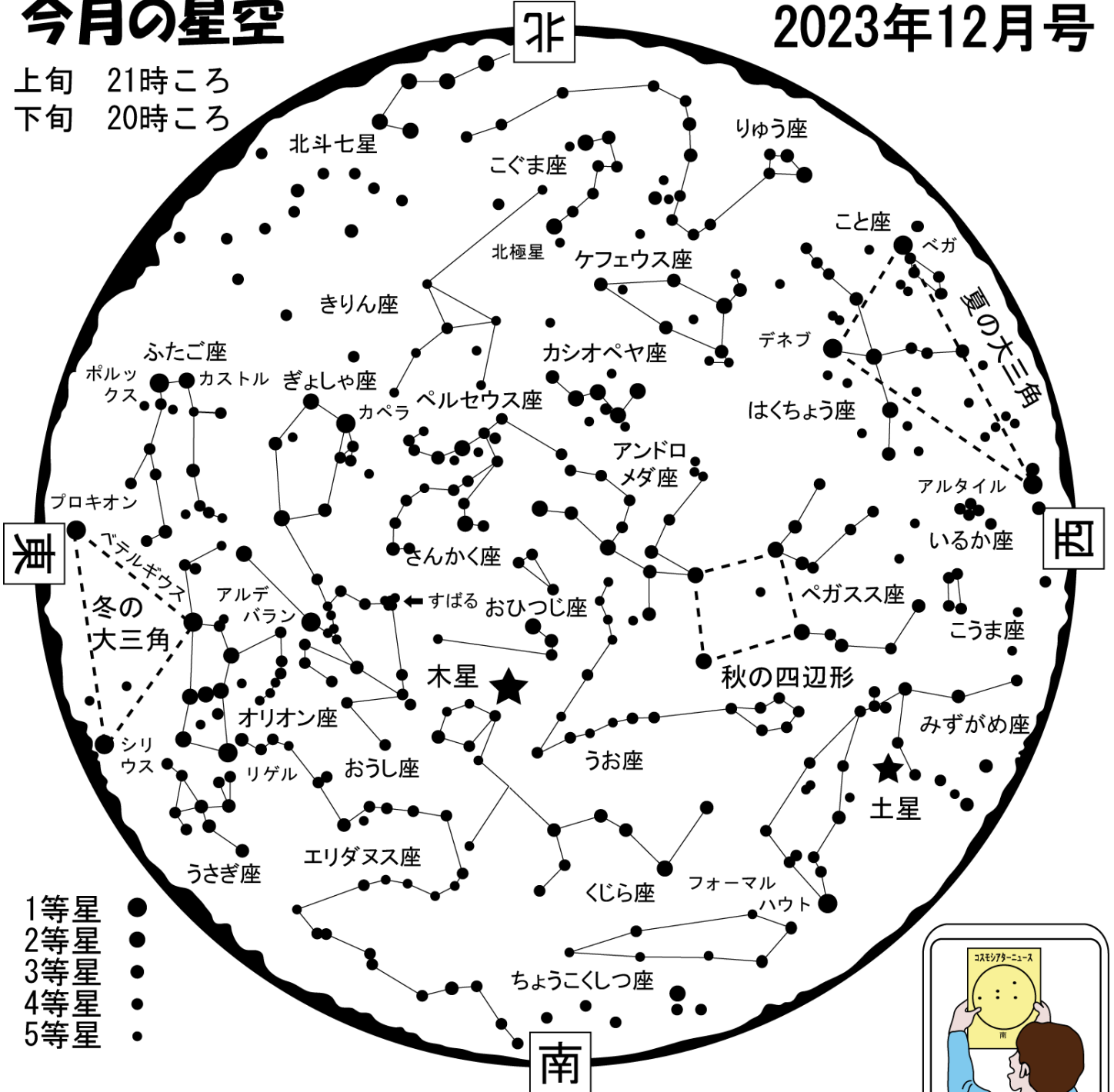


# コスモシアターニュース

## 今月の星空

2023年12月号

上旬 21時ころ  
下旬 20時ころ



## 惑星の動き

水星：上旬の夕方、南西のたいへん低い空に見えます。明るさは0等星です。

金星：明け方、南東の空に見えます。明るさは-4等星です。

火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。

木星：夜のはじめころ、南の空に見え、真夜中ころに南西の空へ移動します。明るさは-2.5等星です。

土星：夜のはじめころ、南西の空に見え、深夜に沈みます。明るさは1等星です。

## 今月の月の満ち欠け

下弦：5日(火) 新月：13日(水) 上弦：20日(水) 満月：27日(水)

## 9日(土)～10日(日)、明け方南東の空で、月と金星が並んで輝く

明け方の午前5時から6時ころ、東から南東の空を見ると、大変明るい星が見えます。この星が金星です。この金星に、9日(土)～10日(日)の明け方、細い月が並んで、大変美しい眺めとなるでしょう。

まず、9日の朝は、月が金星の右上側に輝きます。そして、10日には、金星の下側に、月が移動します。9日と10日の月と金星の間隔は、ほぼ同じです。なお、10日の月が、9日より細くなります。

そして、11日(月)の朝は、月が金星から下側にさらに離れていきます。接近の見ごろは、9日と10日の明け方になります。

金星は大変明るいので、午前6時30分ころまでは見えています。天気が良ければ、連続してご覧いただくと、月の位置や欠け具合の変化を見ることができます。ぜひ早起きをしてご覧ください。

なお、金星の少し離れた右上に、おとめ座のスピカが輝いています。スピカは、金星ほど明るくはないので、あまり目立ちません。ただ、1等星ですので、晴れていれば見つけることができるでしょう。



## 14日(木)～15日(金)、ふたご座流星群が極大となる

流星群の流星は、地球から見ると、ある地点から放射状に流れるように見えます。

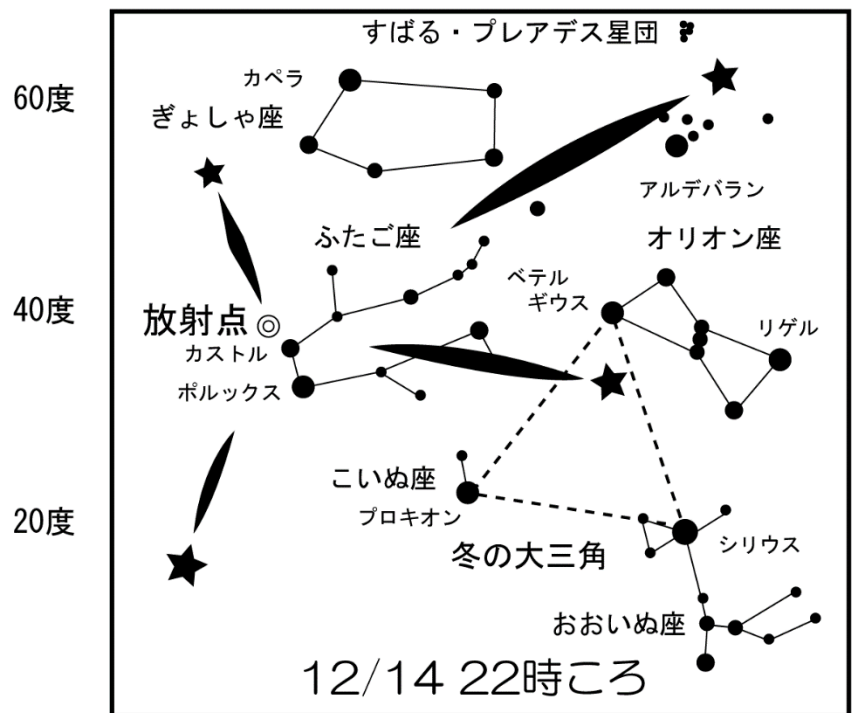
その流れ出す地点(放射点(ほうしゃてん))のある場所をとって、何々座流星群と呼びます。今回はふたご座流星群ですので、ふたご座の方向から全天に流れていきます。

ふたご座流星群は、ほぼ一晩中見られ、見やすい流星群となっています。今年の極大は、15日(金)の午前4時ころに予想ができています。よって、14日(木)の深夜～15日(金)の明け方が多く見えるでしょう。

今年は、月明かりもなく絶好の条件になります。14日の真夜中から、15日の朝にかけて、たくさんの流星が見られるでしょう。今回の条件でみると、15日の未明から明け方前に、松山市内では1時間あたり10～20個程度。空の暗い郊外では、1時間あたり50個以上の流れ星が見られるでしょう。

流星の見える時間は、14日の20時ころから、15日の明け方午前5時ころです。特に、15日の午前2時から午前4時ころが、最も多くなるでしょう。

観察する方向は、真夜中まではおおよそ東の空、真夜中以降は南の空を見ればいいでしょう。ちなみに、極大後の前後の13日深夜から14日明け方と、15日深夜から16日明け方も、1時間あたり5個程度の流星が見られるでしょう。



## 18日(月)、南西の空で、月と土星が並んで輝く

18日(月)の18時ころ、半分より少し細めの月が、南西の空に輝いています。そして、月のすぐ右に、明るめの星が並んで輝きます。この星が土星です。土星は、普通の1等星ですので、肉眼でもすぐに見つかります。ただし、時間がたつと沈んでいきますので、20時ころまでにご覧ください。

## 22日(金)、南の空で、月と木星が並んで輝く

22日(金)の18時ころ、東南の空に、明るい月が輝いています。そして、この月の左下を見ると、明るい星が輝いているのが分かります。この星が木星です。木星は-2.5等星で、普通の1等星の20倍以上明るいので、大変目につくでしょう。

なお、月と木星は、時間がたつと南の空高く昇ります。そして、20時ごろに南、23時ころに南西の空に移動します。月と木星の間隔は、22時すぎが最も狭くなりますが、大きな変化はないので、いつ見ても近い状態です。